

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079900223
法人名	社会福祉法人 鷹羽会
事業所名	グループホーム しじみ苑 しじみ苑(B)
所在地	福岡県田川郡大任町大字今任原3484-1
自己評価作成日	平成27年8月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成27年10月2日	評価結果確定日	平成28年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 自然を感じる空間があるとともに、併設される特別養護老人ホーム・ケアハウスとの日常的な交流や・近隣の保育園・小学校・中学校との交流を大切にしている。
2. 入居者さんの思いを少しでも実現できるよう、個々の支援・利用者さん同氏のつながりを作ることで、職員は「ひとりみんなのために・みんなはひとりのために」の理念を実践出来るように努めている。
3. 地域密着型サービス会議・ケアマネ会議・田川地区(病院)主催の研修会・個々の研修会参加など積極的に参加し、より良い支援が出来るように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ひとりはおみんなのために、みんなはひとりのために」を念頭に入れる事で、支援する中で困った事や悩んだ時に、口ずさむ事で切り替えが出来る事で利用者さんや家族と良い関係で入られる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併用しているケアハウス・特別老人ホームとの合同での行事参加や近隣の保育園・小学校・中学校などと年数回交流を行う。地域の方とは、神幸祭・文化祭(出品)・敬老会に参加し、地域の方との関わりに努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別に取り組んでいないが、運営推進会議を通して行政・地域包括支援センターの職員・地区介護サービス事業協議会などに参加する事で連携をとりながら地域の方々と取り組んで生きたいと思っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月一度開催する中で、出席者が少ない中でも、いただいた意見を反映出来るように取り組みを行いサービス向上に繋げられるように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月一度開催する運営推進会議や地域密着型サービス会議、また、ケアマネ連絡会議への参加などで連携をとったり、職員内に同じ市町村の方がいるので、市町村に相談しやすいため連携をして向上している、		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修として、資料を用い、拘束を行う事によりどのような影響があるのか等の理解を深めていく取り組みを行った上で、可能な限り無くしていけるように取り組みをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修として、資料を用い、虐待の種類や起こる要因の理解を深めたうえで、認知症に対する理解などを話し合い些細な変化にもきずけるよう精神的な面でケア出来るよう心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今までに、制度を活用している人がいないが、今後は必要とする可能性が十分にあるので、研修に参加する事で、得られた知識を職員間で共有出来るように内部研修の機会を設けている。又、外部の方にも理解を得る為に、資料等を設置している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に疑問や不安な点を聞くことで、理解・納得して頂けるように意識している。契約時における利用者契約書・重要事項説明の時に再度疑問点や不安を確認する事で理解・納得して頂けるように心がけている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より、家族の面会が多く、家族には利用者の状況報告・家族の意見・要望は話せる状況なので、利用者・家族・職員で共有する事で運営に反映させている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングを開催し意見・提案などを話しあっている。内容によっては、その場で話し合ったり可能な限り会話する機会を多く設けられるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は資格取得など職員のスキルアップを促している。職員の努力や実績を認め、定期的な把握にも努めている。就業規則に沿って、オーバーワークにならないように指導している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集や採用については、年齢・性別等の制限はなく、ヘルパー2級（初任者研修）を基本としている。また、産休や育児休暇の復帰に際しての支援など非常に働きやすい環境作りに取り組んでいる。又、職員の意見を聞き入れてくれたりと配慮している。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権研修としての受講機会が少ないが、外部研修のみならず、内部研修でも人権について取り組む必要があると思う。参加機会があれば、取り組んで意識向上や理解に努めたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に応じた研修参加を促し参加するように伝えている。又、内部研修等で発表し職員全体が共有出来るように取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年から、田川地区の専門部門が発足された事で、大任地区でのケアマネ連絡会も発足しネットワーク作りや勉強会、事例検討など活動を通じてサービスの向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込みでの、家族・ケアマネ等の情報を元に、本人が少しでも不安にならないような対応が出来るようにしている。入所後は、環境が大きく変化するため、安心して生活出来るように関係を築けるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時点で、ご家族が現在抱えている不安・悩み、施設に対してどのような考えや思いを持っているか等、可能な限り理解し、どのように支援していけるかを共に考えて行けるよう関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時・面接時において十分な情報は得られないので、ご本人、家族と関わることで見えない物が見えてくる時があるので、その上で必要と感じたら提供出来るようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気大切に思っているため、入居者さんの気持ちを受け入れながらも一緒に喜び・悲しみ・怒り・楽しみの関係が築けるように努めている。その中でも、職員は業務だと言うことを、認識しながら努め支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所申し込みの時点から、共に考えていける関係を築けるように努め、ご家族の状況を踏まえた上で可能な限り協力して頂けるよう信頼関係を築けるように努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や近隣の方などの面会・電話での連絡・手紙等の関係の継続は多少見られる。外泊・外出が困難になっている方は、家族に面会の機会を増やして頂けるように努めている。こちらからも隣接している、ケアハウス・特養・地域の行事の参加をりようして、関係が途切れないよう、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活を行う事で、些細なトラブルがあっても回りの方や職員がフォローすることで、助け合える瞬間を大切にし車いすを押して頂いたりして助け合える環境が整えるように意識している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所しても今後も何かの縁で関係するかわからないので、いつでも相談に乗れる事を伝え、いつでも連絡して頂きことを怠っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「本人はどうしたいか」と言う事を考えた支援を心がけている。意思表示の困難な方に対しては、性格・生活歴・ご家族からえた情報を踏まえ、本人主体になれるように関わりを持てるように努めている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人らしさを知るためには、初期段階だけでなく、継続的に、ご本人・御家族・日頃の生活からも情報収集をこまめに行えるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の性格・過ごし方・心身の状態の違いがあるので、日々の生活観察を把握し、その人らしさが出るように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人よりの要望は殆どない為家族と話し合い、今本人に必要なケアを日常生活から見えてくる課題などを話し合い実践に反映出来るようにしている。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で観察に注意を払い、些細なことでも気づいたことを介護記録に記入している。突然の変化や状態が変わった時などは、そのつど職員間で話し合う、又月一回のミーティング等を利用し、よりよいものになるように話あっていきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者は、少しの環境変化・季節の変わり時に、体調変化・体調不良になりやすいのでその人にあったニーズが求められる、その為にもはその人にとって一番良いかを家族と連携を取りながら支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	身体状況によるが、買い物・食事・美容室・など本人の意向をもとに資源の活用に心がけている。近隣の保育園・小学校・中学校の皆さんが来られると喜ばれるので交流が出来るように努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から利用している病院の継続して受診出来るように本人の意向に添って受診介助を行っている。ただし、緊急で他者受診の時は、家族に説明して同行受診を求めている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回地域の訪問看護さんを利用している。些細な事でも気になることあればいつでも尋ねたり相談したり日々の健康管理などケアに反映させている。又、何かあれば24時間体制で対応して頂けるので安心できる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要となった時は、医療機関と随時連携を行いながら、退院までの流れをつくるよう努めている。また入院期間中の関係が途切れないように、可能な限り面会に行くように心がけている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居するにあたり「看取りに関する指針」の説明を行っている。日頃から利用者の様子を家族に報告をしている。重度化しつつある状況などは本人・家族・職員間で検討する事で受け入れる事で取り組める。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修・内部研修を取り入れている。職員間で急変時・事故が起こったときは、迅速に対応出来るように定期的な研修を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(消防署立ち会い・自主訓練)避難・通報・誘導・併用しているケアハウスと消化訓練を実施している。参加できない職員もいるため、日頃から意識してもらえよう取り組んでいる。又、自主的に救急救命講習を受講している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で、嬉・楽しい・思いやりを大切に利用者・職員が共有している。入居期間が9年～2年の方とバラバラなのでなじみの関係から遠慮の関係があるので全体を観察しながら一人一人の関わりを大切に心がけている		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「本人はどうしたいか」又、意思表示の困難な方は「本人ならどうしたいのか」という本人主体となる念頭に置き、可能な限り本人の思いや希望を表現出来るよう働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思で行動出来るよう声掛けなどの工夫は行っているが、職員配置の関係や何かが重なってしまった時の時間の関係から、こちら側の都合になってしまうことがあるので可能な限り希望に添えるように支援を考えて行きたい。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	口元・髪の毛の乱れ・衣服の汚れ・乱れなどの最小限の意識はしているが、それ以外のおしゃれの部分は、本人の意向を取り入れながら支援している。(化粧水の購入など)		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を感じて頂くために、旬の物を取り入れ、利用者さんに調理の仕方をアドバイスして頂いたり誕生日会などは皆さんに食べたいものを聞いたりして提供している。又、テーブル拭きや後かたづけなど出来ることは行って頂いている。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の健康チェック・パターンシートを作成し一目で把握出来るように心がけている。野菜を主に、肉・魚・果物など良い食事が提供出来るように心がけている。消化不良になりやすい方などは、個々の対応を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行っている。自分で出来るところまで自分で行っていただき、最後に職員が確認し義歯・洗浄などを行っている。毎週1回訪問歯科が来苑されるので口腔ケア・定期的受診を診て頂いている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のパターンシートを作成。排泄・排便の間隔・トイレに行きたいときのサインを共有している。可能な限りトイレの排泄が行えるように取り組んでいる。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護より便秘が及ぼす影響などの指導のもと、日々の生活の中で可能な限り体を動かしたり・食事のバランス・便秘薬の併用をしながら支援している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回出来るようにしている。時間帯はその日の状況にて行うように心がけている。入浴を拒否する方はコミュニケーションを取りながら支援している。又、体調の悪い方・おむつを利用している方は清拭などで対応している。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状態や休息を希望される場合は、時間帯にとらわれず休んで頂くようにしている。又、昼食後は、下肢浮腫軽減の為1時間程休んで頂いている。ただ、夜間安眠ができないことがないように常に意識している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に薬の説明を入れ、変更があった場合は申し送りだけでなく、個々に把握できるように受診記録にも記録している。新たな追加・変更になった場合などは状態の観察を細かく行えるように努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活における役割も、身体状況にて、ちがいがあるので意欲低下にならないように支援したい。また、利用者さんに新たな物が提供できるように職員も新たな物を探せる関係を作りたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の身体状況によるが、買い物・美容院などの支援や職員が同行してお墓参り・結婚式に付き添ったり個々の支援を出来る限りしている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な利用者さんは管理を行って頂きたいが、今は管理が困難になっているので、家族承諾のもと施設が管理を行っている。家族に毎月、金銭出納帳・出金明細を確認して頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から、電話を掛けたいなど要望があれば支援している。家族や知人などからも電話があった時は取り次いでいる。手紙は、住所など確認した上で送っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃箇所を職員で分担して行い、清潔の保持に努めている。その他明るさ・温度・定期的な換気なども行い、心地良く過ごせるように工夫している。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者のほとんどの方がリビングで過ごされる。テレビを見ながら話されたり・パズルをされたい方は自分で選んでしたり・少しや休みたい方は居室に行き休んだりして思い思いに過ごしています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、なじみの物を可能な限りいれてもらえるようにし、環境の変化を最小限に出来るようにこころがけている。本人が不愉快にならないよう配慮を行い居心地の良い空間をとるようにしている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態を把握した上で、可能な限り工夫を行っている。今後もその人に会った事を検討し、自立した生活が送れるよう支援して行きたい。		